

越谷の観光

越谷で触れる四季と“らしさ”

市内には、元荒川、大落古利根川、新方川、中川、綾瀬川の5本の一級河川が流れています。元々お皿のような地形の越谷市は、昔から水害に悩まされながらも、江戸と地方を結ぶ舟運の中継地点としてにぎわい、水の豊かさから「水郷こしがや」と呼ばれ親しまれてきました。



大落古利根川の古利根堰



中川と大落古利根川の合流点



新方川とキャンベルタウン野鳥の森



綾瀬川と藤助河岸



元荒川と葛西用水



水郷は花も緑も美しく

豊かな水に生まれ、越谷市では四季折々に美しい自然が目を楽しませます。春から夏にかけては、市内各所で美しい花々に出会えます。

元荒川の桜堤



中央市民会館東側、
葛西用水中土手のハナショウブ



神明橋遊歩道のシバザクラ



越谷梅林公園のウメ



久伊豆神社の藤まつり（4月下旬～5月上旬開催）。
樹齢200年を超えるフジの花房が見事です



出羽公園で行われる出羽チューリップコミュニティフェスタ（4月中旬～下旬開催）では、約6万本もの色とりどりのチューリップが咲き誇ります



人が集まる、まちがにぎわう

南越谷阿波踊りは、徳島市、東京・高円寺とともに「日本三大阿波踊り」の一つとされ、毎年70万人の人出でにぎわう夏の一大イベントです

市内では、季節ごとにさまざまな催しが行われていますが、夏は市内外から多くの観光客が集まるイベントが盛りだくさんです。人々の熱気は、夏の暑さもしのぎます。



水郷こしがやを象徴するスポットとして市役所東側に整備された葛西用水ウッドデッキ。音楽イベントやマルシェなど、市民参加型の各種イベントが開催されています



平成22年から行っているこしがや田んぼアート。市内を見渡せる東埼玉資源環境組合第一工場の展望台から全景を眺めることができます



約5,000発の花火が夜空を彩る越谷花火大会は越谷の夏の風物詩です



市民とまつりと文化芸術と

市民の手づくりによる、市民のための祭典、越谷市民まつり。交通安全を願って行われる恒例のオープニングパレードには約100団体が参加しています

越谷市民まつりや協働フェスタなど、秋から冬にかけては市民一人ひとりが作り上げる催しが開かれます。また、屋外能楽堂で行われる薪能など、越谷だからこそ楽しめる芸術があります。



越ヶ谷秋まつりは、旧越ヶ谷町で行われてきた五穀豊穰を祝う山車祭りです。江戸時代中頃の元禄年間より300年以上にわたって伝えられ、現在は数年に一度の開催となっています



県内唯一の屋外能舞台をもつこしがや能楽堂。毎年9月に開催される薪能では、かがり火の幻想的な雰囲気の中、一流能楽師の演能が鑑賞できます



郷土芸能祭では、越谷市に古くから伝わる囃子・神楽・木遣などのさまざまな郷土芸能が披露されます。市内小学校の郷土芸能クラブの児童による発表も行われます



商工業者と農業者が一堂に会すこしがや産業フェスタ。直径2mの大鍋で作る5,000人分のこしがや鴨ネギ鍋は、名物になっています



個性豊かなこしがやの顔

市文化財として登録されている建造物から、本格的な日本庭園、商業施設などの新たな観光名所まで、越谷には来て・見て・体験して楽しい、見どころいっぱい施設が数多くあります。

越谷いちごタウン



はかり屋



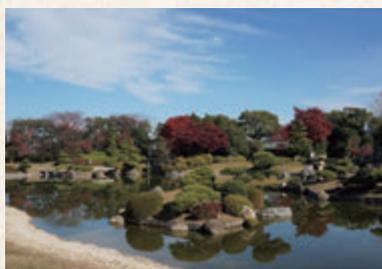
ガーヤちゃんの蔵屋敷



大間野町旧中村家住宅



キャンベルタウン野鳥の森



花田苑



旧東方村中村家住宅

越谷レイクタウン



宮内庁が管理する全国で2カ所だけの鴨場

宮内庁埼玉鴨場



宮内庁が管理する「鴨場」は、越谷市大林にある『埼玉鴨場』と千葉県市川市にある『新浜鴨場』の2カ所だけです。宮内庁や県、市が行う見学会などを除き、ふだんは一般公開されておらず、国内外の賓客をもてなす特別な場所です。



埼玉鴨場入口の門

江戸時代、越谷には鷹たかを使って狩を行う鷹場があったことから、明治時代に越谷を含む地域が皇室専用の御猟場として指定されました。現在、鴨場で捕獲した鴨は調査を行った後、すべて放鳥しています。埼玉鴨場は、明治41年（1908）に開設されました。広さは約12ヘクタール、東京ドーム2・5個分ほどあります。中央にある約1ヘクタールほどの元溜だまりという池は、毎年8月の終わりから翌年の5月まで、渡り鳥など3000羽を超える野鳥が飛来する、鳥たちの楽園となっています。



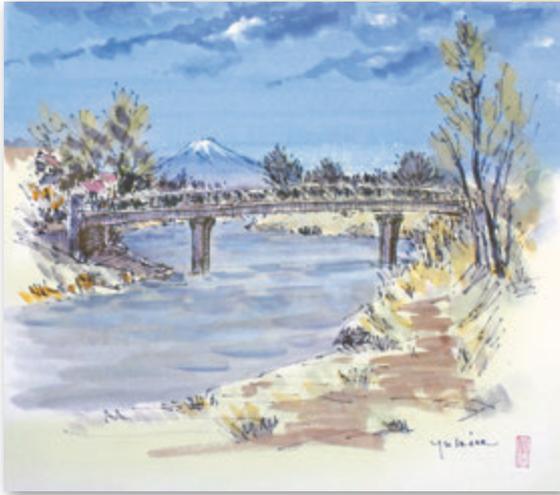
元溜周辺は竹林で覆われており、人の気配を鳥たちに伝わりにくくしています



賓客をもてなす食堂は鴨場開設当時の面影を残しています

残したい風景

越谷アメニティ八景(画・大徳 幸雄 氏)
昭和57年に市民投票で決定



眺望が開け富士山が見える風景

富士山が見えることは、開けた眺望のシンボルであり、以前に比べて少なくはなりましたが、富士山や日光連山を遠望できる場所は市内にまだ残っています。



古利根川の緑豊かな水辺

市の東部を流れる大落古利根川の流域は、比較的人の手が加わらず、自然堤防上の緑が広い川面に映り、見る人の心を和ませます。



久伊豆神社の社叢

参道の長い松並木とフジの花、うっそうと茂る樹木を背にした朱塗りの社殿、境内に残された越谷吾山や平田篤胤の遺跡など歴史的雰囲気、緑がよく調和し、荘厳な趣があります。



古い家並・宿場の面影

旧日光街道沿いの越谷谷や大沢には、数は少なくなりましたが、蔵造りの家や千本格子の家が見られ、古い宿場の面影を残しています。

いつまでも



鎮守のもり

どこの地区でも見られるお寺や鎮守のもりは、信仰の場であると同時に木陰を作り、子どもたちの遊び場ともなり、地域のコミュニティの場となっています。



元荒川の桜堤

北越谷の元荒川堤に植えられた桜並木は、延々2kmにわたり見事な花をつけ、広々とした河川敷と一体となり、市街地の中の行楽の場となっています。



豊かな水をたたえた田園風景

青々と広がる水田の間を縦横に流れる大小の水路と、そこに植えられたハンノキ、点在する農家などは市を代表する景観の一つです。



元荒川と葛西用水の開けた水辺

元荒川の宮前橋から市役所わきを経て瓦曾根堰の水門にかけては、葛西用水が隣接し、川辺は釣りを楽しむ人、お弁当を広げる家族連れなど市民の憩いの場となっています。

いつまでも残したい自然

植物

水と緑に恵まれた越谷では身近なところに自然が残っています。四季折々に美しい花が咲き、訪れる人を優しく迎えてくれます。目につくウメやナノハナ、サクラ、フジ、ボタン、チューリップ、ハナシヨウブ、コスモスなどだけでなく、ひっそりと咲いている花たち、越谷の地名が付いたコシガヤホシクサやキタミソウなど、埼玉県のレッドデータブックに絶滅危惧種として指定されている植物たちも精いっぱい花を咲かせています。

コシガヤホシクサ

埼玉県レッドデータブック絶滅

昭和13年に旧越ヶ谷町の元荒川付近で発見され、14年に新種として発表されたホシクサです。発見地にちなみ、コシガヤホシクサと命名されました。

越谷市と茨城県下妻市に自生していた小さくかわいい水草です。湿地に生育するホシクサ科の植物ですが、現在、野生のものは絶滅しています。国の研究機関で野生復帰のための取り組みが進められており、越谷市でも残された種子から野生復帰のための取り組みを行っています。

8月～9月に直径1mm～2mmほどの白い星型の小さな花を咲かせます。



キタミソウ

埼玉県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類

北海道の北見地方で最初に発見されたのでこの名前がついたといわれています。

北方系の植物で、現在群生地としては、越谷市を中心とする埼玉県東部周辺、茨城県の小貝川、北海道や熊本県熊本市の一部だけとなっている珍しい植物です。

越谷市で最も多く群生して見られるのは、葛西用水路瓦曽根溜井です。用水の水位の下がる10月と3月ごろの2回、直径2mmほどの白いかれんな花を咲かせます。



ノウルシ

埼玉県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類

河川敷の泥地などの湿地に生える高さ30cmほどの多年草です。茎は直立し、葉は互生し、細長い楕円形で長さ5cm～6cm、幅6mm～7mmです。4月～5月に茎の先端に5枚の葉を輪生し、そこから放射状に枝を出して複数の花をつけます。葉や茎を傷つけるとウルシに似た白い汁が出て、かぶれることからこの名が付きしました。



レンゲソウ



ホトケノザ



フジバカマ



セリ



スミレ



シロバナタンポポ



クコ



キクイモ



ガガイモ



カラスウリ



オオジシバリ



ナガボノシロワレモコウ



イモカタバミ



イシミカワ



アキノノゲシ

生き物

市内の緑道や水辺を散策するとたくさんの生き物が生息していることがわかります。

カルガモやサギ、カワウ、セキレイ、シジユウカラなど…。

そのほか埼玉県レッドデータブックに掲載されているシラコバトやアオバズク、カワセミなどの鳥たちとすてきな出会いがあるかもしれません。



みんな一緒に生きている…



シラコバト

埼玉県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類

昭和31年(1956)1月14日、国の天然記念物に指定され、埼玉県の「県民の鳥」、越谷市の「市の鳥」になっています。以前は、市内や県内で多く見られましたが、現在では数が急激に減っており、埼玉県内の生息数は100羽程度となっています。近郊では、千葉県、茨城県、栃木県などの一部にも分布しています。



アオバズク

埼玉県レッドデータブック準絶滅危惧Ⅱ型

夏鳥として4月の終わりごろ日本全国に渡ってきます。県内では山地の森林や低地の市街地の神社などの大木で繁殖が確認されています。市内では、神社の社叢林や宮内庁埼玉鴨場で確認されています。巣となるうろがある大木や餌となる昆虫が減ってきていることから、子育ての場所が少なくなり、個体数の減少が心配されています。



カワセミ

埼玉県レッドデータブック地帯別危惧

全国の川、湖、沼などにすんでおり、ほとんどの地域で一年中見ることができます。河川周辺の土や崖に巣穴を掘って子育てをします。一時水の汚れや河川改修などにより低地ではほとんど見られなくなりました。市内では、大落古利根川やしらかぼと水上公園、大相模調節池などの水辺で確認されています。





アマサギ



ツミ



ヨシゴイ



アマガエル



アオモンイトトンボ



カイツブリ



ナナホシテントウ



ホンドイタチ



コチドリ



アオスジアゲハ



ジャコウアゲハ



アオサギ



キジ



ギンヤンマ



メジロ